

食育活動を取り入れた小学校社会科の授業実践

安藤 光紀

キーワード：食育活動，社会科，授業実践，兵庫県

1. はじめに

近年，児童・生徒を取り巻く社会環境の変化が生じている。食習慣であったり，睡眠時間の不足，遊びの環境の変化であったり社会環境の変化はさまざまである。現代の子ども達の食生活は偏っている。成長期にあたる児童・生徒にとって，健全な食生活は，健康な身体や心を育むために欠かせないものであり，さらには，将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすと予想される。また，近年の児童・生徒の体力の低下は著しい。食べることは，健康と体力づくりの基盤である。そのため，食育活動はこれからの学校教育が目指すべき「生きる力」を育む基礎となる。「食に対する指導（食育）」が，学校教育の新たな課題としてクローズアップされている。食育指導は，給食指導のみならず各教科との連携が大切である。本来なら食に関する問題は，家庭が中心となり行うものだ。そのため，学校，家庭，地域が連携して，子どもに対する食に関する指導を充実し，望ましい食習慣の形成を促し，食環境を整備することが求められている。食生活の問題点は心へも影響する。これらの食生活の現状が，学校教育に負の影響を与えている。その影響を是正していくために，「食べることは命をつくる営み（藤沢 1981）」ということ子どもたちに教え，正しい食習慣を身につけさせるのが現在の食育活動の現状である。

本研究の目的は，食育を「生きた教材」として社会科の学習における活用を検討し，授業モデルを構築することである。食育指導と社会科を結びつけて，学習指導案を作成し，自分たちの食べている食料はどこから来て，誰が作っているのかを子どもたちに教え，「食べることのできるありがたみ」を子どもたちに伝える授業モデルを構築する。

2. 食育活動の課題

食育活動を進めていくうえで「食べる」ことの意味を児童に問うていかなければならない。現代の子どもは，食べることに興味を持たず，偏食をする子どもが多い。普段の学校給食の時間でも好き嫌いをし，おかずを減らしたり残したりする児童がたくさんいた。「人はなぜ食べるのか」という問いを改めて子どもたちに問う必要がある。藤沢（1981）は，食べることは命をつなぐ営みにほかならないと述べている。藤沢のいう内容に気づくことが食の自立に向けた第1歩になるのである。学校教育では，食物の働きを知り，食べることの意味を考え，実際の食生活につながるような学びが必要となってくる。

次に本研究のテーマでもある小学校社会科での課題について考察する。社会科という科目で食育活動を実践していくには少し難があると考え人も多いはずだ。なぜならば，社会科をはじめ各教科には，固有の目標や内容が設定されており，その中で食育活動を進めていかなければならないからだ。つまり，社会科自体の目標プラス，食育活動の目標の2つを設定しなければならない。教科の中で食育活動を進めるとき，教科との目標や内容と

の関連を図ることが課題である。食育活動と教科の目標が一致しない場合は、まず当該の教科の目標や内容を身に付けること、これを第一義に押さえるということが大切である(江口 2011)。このことが副次的なものになったり、あいまいにされてしまうと教科の目標が達成できない結果になり、「これは社会科なのか、食育の時間なのか」と指摘されかねない。そのため、しっかりと社会科の「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」という目標に従事した単元目標を設定したうえで、食育の視点を考えていかないと、児童の知識の定着というものは薄くなる。

3. 社会科と食育活動の関わり

社会科の教科目標に「我が国の国土に対する理解と愛情を育てる。」という文がある。身近な地域や市区町村、都道府県の様子についての指導を踏まえて、日本の国土の地理的環境とその環境下で営まれている産業の様子の理解を図り、その産業を発展させる交通の発達による運輸、貿易にも着目し、日本の国土に対する愛情を育てることをねらいとしている。この目標は、日本の産業や貿易に着目しているので、食べ物が食卓に運ばれるまでのルートや海外からの食べ物の輸入、加工貿易などの観点で食育活動との結びつきが強いと考える。

4. 兵庫県の取り組みと兵庫県の特産品

(1) 兵庫県の取り組み

兵庫県では、食育の周知から「実践と連携」をコンセプトに「食育推進計画」を策定している(第2次は平成24年3月策定)。キャッチフレーズは、「食で育む元気なひょうごーみんなでとりくみ つなぎ ひろげるー」である。兵庫県では4つの柱を中心に取り組みがなされている。その4つの柱とは、(1)健全な食生活の実践(2)「農」と食の営みを支える活動の推進(3)ひょうごの食文化の継承と創造(4)食育活動の推進と連携体制の強化である。主な重点課題として1つ例をあげると、兵庫県の「農」との関わりを深める環境づくりや、地域への愛着を感じる人づくりなど地産地消による食づくりなどがあげられる。これは、社会科と密接に関わっているといえる。地域の特産品を例に授業を展開していくことで、消費者と生産者との関係や交通の発達による農産物の輸送などを学んでいくことが可能である。社会科では、食卓に並ぶまでの食材の動きを中心にさまざまな授業が展開できる。食材の動きを通して地域への愛着を児童が感じられるように社会科の授業を構築していくように努める。

(2) 兵庫県の特産品

平成25年1月時点で、兵庫県内には29市と12町が存在している。その各市町の食品に関する特産品をまとめる(表1)。各市町村には、それぞれの特産品があり、第3学年の単元である「市の様子」、第4学年の単元である「わたしたちの県」を勉強する上で、学校教育と密接な関係を持っている。また、いくつかの市では、その地域での特産品を給食の献立に取り込み、自分の住む地域への関心を高めさせる工夫がなされている。また学校給食では、玉ねぎなどの野菜は、兵庫県下で栽培されたものを使用するなど、自分の住む地域だけでなく、県にも関心を高めさせる工夫がなされている。学校給食は、地域・県の特産品を使用したりするなど、栄養教諭指導のもと、毎月綿密に献立が考えられている。そうすることで、安全で安心して学校給食が食べられるようになっている。

表1 兵庫県下の市町村の特産品（平成24年 29市12町現在）

・神戸地域（1市）

神戸市	いかなごくぎ煮
-----	---------

・阪神地域（7市1町）

芦屋市	洋菓子、清酒
尼崎市	醤油
西宮市	清酒
伊丹市	清酒、南京桃
川西市	桃、いちじく、栗
宝塚市	炭酸せんべい
三田市	牛、松茸、うどん
猪名川町	清酒、猪肉、松茸

・東播磨地域（8市3町）

明石市	蛸、いかなご、苺
加古川市	かつめし
高砂市	焼アナゴ
三木市	酒米、ピーマン
小野市	いちじく、豆腐
加東市	桃、ハチミツ
加西市	米、もろみ
西脇市	牛、のりしいたけ
稲美町	苺ジャム
播磨町	干だこ、海苔
多可町	地鶏、ごぼう

・西播磨地域（5市6町）

相生市	牡蠣
赤穂市	塩、牡蠣、みかん
姫路市	たけのこ、アナゴ
たつの市	そうめん、醤油

宍粟市	しそ、もち米、黒豆、味噌、宍粟牛
上郡町	モロヘイヤ、茶
太子町	たけのこ
神河町	ハチミツ、柚子
市川町	ひまわりの種
福崎町	麦
佐用町	もち大豆、椎茸

・但馬地域（3市2町）

朝来市	ねぎ、黒大豆、苺
豊岡市	但馬牛、そば、蟹
養父市	鮎、わさび、林檎
香美町	わさび、スッポン
新温泉町	但馬牛、梨

・丹波地域(2市)

丹波市	山芋、豆、丹波牛
篠山市	キャベツ、黒豆

・淡路地域(3市)

淡路市	たまねぎ、レタス
洲本市	たまねぎ、牛乳
南あわじ市	ハマチ、たまねぎ

出所) 兵庫県の各市町村のホームページより筆者作成

4. 授業案の検討

本研究では、第4学年の「わたしたちの県」の学習指導案を作成する（資料1）。取り扱う内容は「兵庫県の交通網の発達」である。交通網の発達を食育活動の内容と結び付けていく。兵庫県には高速道路やJR、港など主要な交通機関が多数存在している。その交通機関を利用して食材がスーパーマーケットなどに運ばれ、それを買い、食することができるということを理解させる。つまり、交通の発達がいかにわたしたちの食生活を豊かにさせたのかを児童に学ばす。そうすることで、食育活動を社会科の授業で展開する。

5. おわりに

本研究の目的は、食育を「生きた教材」として社会科の学習における活用を検討し、授業モデルを構築することである。

「人はなぜ食べるのか」という問いから、学校教育で食育活動を進めていく上での課題を明確化した。そこから、教科活動の中で食育活動を進めていくための課題を見出した。そうすることにより、食育の現状というものが把握でき、社会科や各教科と連携して取り組むにはどのようにしたら良いのかを分析することができた。

次に、兵庫県の特産品を事例に挙げ考察することで、小学校社会科の学習指導案作成に対しての意識づけをおこなった。また兵庫県には市町村が現在29市と12町存在する。その各市町村の特産品を明確化することで、その地域の小学校の特産品を取り入れた給食指導、教科指導の工夫を考察することができた。

最後に、兵庫県の交通の発達をメインに考えた社会科に食育活動を取り入れた学習指導案を作成した。その内容を取り入れることで、児童は自分たちの住む県や市に対して関心を持ち、愛着を持つことができていた。本学習指導案では、第1に社会科自体の目標を考え、その内容にプラスして食育活動の目標を決めていたので、単に食育活動を進めて行く授業ではなく、社会科に関連した内容の授業となった。

本研究で「食育活動」についての知識を有することができた。今後、「食育活動」というものは学校教育でかかせない教育活動になると考える。その時に、本研究で得た知識を十分に発揮し努めていきたい。

資料 1 第 4 学年社会科学学習指導案（略案）

- ・ 単元名：「兵庫県の交通の発達」
- ・ 目標：交通網の発達により輸送がしやすくなり，人々の生活が発展したことを理解する。
（社会的事象への知識理解，食育活動の知識・理解）

本時の展開

学習活動	教師の主な指導・支援	評価
1. 前時までの復習を する。	・ 土地利用の様子，産業，特産品 についての復習をおこない，本時 の内容に入りやすくさせる。	・ 前時までの内容 を理解できているか。 【知識・理解①】
交通の発達により，人々の生活はどのように変わったのだろ う。		
2. 兵庫県の交通網の様 子を調べ，気づいたこ とを発表する。 ・ 高速道路 ・ 国道 ・ 明石海峡大橋 ・ 港，空港	・ 資料を配布し，兵庫県の交通網に ついて教科書，資料をもとに調 べ，発表させる。 ・ 兵庫県は，面積が大きく交通の発 達により行き来がしやすくなっ たことを理解させる。	・ 資料を活用し，意欲 的に調べ，発表しよ うとしているか。 【技能】 【関心・意欲・態度】 ・ 兵庫県の地形の特 徴を理解し，活かすこ とができているか。 【知識・理解②】
3. 交通網の発展により 食材の搬送が豊かに なったことを理解す る。	・ 交通網の発展により，兵庫県産の 新鮮な野菜や魚介類，米が家庭 での食卓，給食に運ばれ，利用さ れていることを理解させる。 ・ 空港や港の発展に伴い，その他 の都道府県の食材が手に入るこ とを気づかせる。	・ 交通網の発展が人々 の暮らしを豊かに していることを理 解しているか。 【知識・理解③】 ・ しっかりと考えるこ とができているか。 【思考・判断・表現】
4. 本時のまとめ	交通の発達により，新鮮な野菜，米，魚介類などが手に入るよ うになり，人々の生活はゆたかになった。	

（出所）筆者作成

参考文献

- 江口敏幸・白井ひで子・長島美保子（2011）：『はじめての食育授業』，群羊社，pp. 4-8.
藤沢良知（1981）：『現代っ子の食と健康』，第一出版，244p.
文部科学省（2008）：『小学校学習指導要領解説 社会編』，東洋館出版，pp. 18-99.

Teaching Practices of Social Studies in Elementary School Incorporating Dietary Education Activities

ANDO Koki

Key Words : Dietary Education, Social Studies, Teaching Practices, Hyogo Prefecture